

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和8年1月6日

番号	定量的指標の定義及び算定式	計画の成果目標（定量的指標）		
		定量的指標の現況及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	図書館及び観光交流センターの利用者数 図書館の来館者数が観測されており、その値を評価値とする。	H29 82,293人/年		R5 113,000人/年
2	地区のイベント数 本都市再生整備計画区域内で行われたイベントの実施回数について集計を行い、評価値とする(使用申請の台帳、又は市HP及びインターネットのイベント情報より集計)。		4回/年	28回/年
3	泉大津駅利用者数 南海電鉄HP記載の鉄道線各駅一日平均乗降人数推移より、泉大津駅の利用者数について集計を行い、評価値とする。		28,682人/日	30,000人/日
4	泉大津駅前通り線歩行者数 泉大津駅前通り線において交通量調査(7-19時、歩行者対象、平日1回1断面)を実施し、歩行者数について集計を行い、評価値とする。		2,362人/日	2,600人/日
5				
6				

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靭化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

事後評価

○事後評価の実施地整、実施時期

事後評価の実施体制		事後評価の実施時期
泉大津市が事後評価を実施		令和5年度
公表の方法		泉大津市ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況	図書館及び観光交流センター利用者数と地区的イベント数については、目標値以上の数値を達成したが、泉大津駅利用者数と泉大津駅前通り線歩行者数については、新型コロナウイルスの影響等により目標値を達成できていない。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	市民団体と連携しワークショップを実施することで、市民のまちづくりへの意欲が向上している。

○特記事項（今後の方針等）

- ・泉大津駅前通り線を中心とする泉大津駅西側地区においては、今後も地域の活性化に繋がる計画を策定し、賑わいを再生していく必要がある。
- ・都市再生整備計画の区域内において、都市空間の質（交通利便性、快適性、安全性）の向上を図るため、継続的に整備を行う。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	図書館及び観光交流センターの利用者数		図書館及び、観光交流センターの来館者数が増加した要因としては、図書館及び観光交流センターの移転に伴う、利便性の向上や、認知度の向上によるものと考えられる。
	最終目標値	113,000人/年	
	最終実績値	203,344人/年	
2	地区のイベント数		地区のイベント数が増加した要因としては、公園整備と市の積極的な取組によるものと考えられる。
	最終目標値	28回/年	
	最終実績値	33回/年	
3	泉大津駅利用者数		泉大津駅利用者数は目標値を下回る値となっている。（従前値の78%）要因としては、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、また、それに伴うリモートワークの浸透等が要因として挙げられる。
	最終目標値	30,000人/日	
	最終実績値	22,500人/日	
4	泉大津駅前通り線歩行者数		泉大津駅前通り線歩行者数は目標値を下回る値となっている。（従前値の92%）要因としては、道路整備事業が未完了、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、商業施設の休業・閉店等が要因と考えられる。
	最終目標値	2,600人/日	
	最終実績値	2,176人/日	
5	最終目標値		
	最終実績値		
6	最終目標値		
	最終実績値		